



校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠



本物の感謝の気持ち

本日の修了式で私から阿賀っ子に送った式辞をご紹介します。

阿賀っ子全員、今の学年を本日無事修了することができました。本当におめでとうございます。この後、担任の先生から皆さん1人1人に手渡していただく修了証をじっくり見てください。それを見たとき、どんな気持ちが湧いてくるのでしょうか？

今、ここがウクライナだったら？ここがトルコやシリアだったら？と考えてみてください。

ウクライナ侵攻による死者は約30万人に達すると言われています。トルコ・シリアで発生した大地震の死者は5万人を越えたとも言われています。この他、事故や病気、寿命も含め、全部合わせると、世界中で、毎日毎日約20万人、国内だけでも約4千人が亡くなっています。こんなにたくさんの方が毎日毎日亡くなっているのです。

今、こうして、修了式を迎えられることは、実は当たり前ではない。それどころか、今、自分の命がここにあることさえも、決して当たり前ではないということです。

そういうことがいつも意識できるようになると、頭では分かっているはずの「感謝の気持ち」が正真正銘の本物の「感謝の気持ち」になります。「感謝の気持ち」が本物であれば、せっかくいただいた自分の命を精一杯生きようとするでしょう。まわりのすべての命も自分のことのように大切にしましょう。そういう人に自分はこの1年間ならうとしてきたのか？これからもならうとしているか？そのことを改めて振り返る1日にしてほしいと思います。

ちなみに、これを何と読むか知っていますか？寿（ことぶき）の命（いのち）と書いて「寿命」（じゅみょう）と読みます。生きている時間、生きられる時間のことですね。最後に命尽きるのになぜ寿（ことぶき）なのでしょう。なぜ、めでたいことを表す寿（ことぶき）なのでしょう。寿（ことぶき）は、「寿（ことほ）ぐ」とも読みます。「寿（ことほ）ぐ」とは、声に出して相手をほめることです。「寿命」とは、命尽きる時、「会えてよかった」「ありがとう」と声に出してほめてもらえる命のことを本来は言っているんですね。最後にまわりからこのようにほめてもらって亡くなる人は、ずっと本物の「感謝の気持ち」をもって生き抜くことのできた人なのだと思います。これまで1年生で約二千五百日、5年生で約4千日を生き抜いた阿賀っ子の皆さんが、これから100歳まで生きるとして残り3万日あまり。その1日1日を「感謝の気持ち」が本物になることを目指して生きていってほしいと思います。まずは、見守りの方に「おはようございます。ありがとうございます。」が、阿賀っ子全員、自然に言えるようになりましょう。

令和5年 3月24日

呉市立阿賀小学校長 安宗 誠

阿賀西延崎プラチナクラブから、200個も手作りのごまとお手玉いただきました。



手作りごま



手作りお手玉

会長 小田和子様と1年代表児童で記念撮影！

